

あとがき

第二十回日蓮宗教化学研究発表大会は、令和元年十月二十五日、日蓮宗宗務院で開催しました。本冊子は当日の発表内容を収録したものです。

本年度の発表は、一名の特別報告者と二名の特別発表者、並びに八名の発表者の計十一名により行われました。ご発表頂きました皆さまには、この場を借りまして御礼申し上げます。また、多くの申し込みがありました。時間が都合上、お断りさせて頂きました皆さまには、来年のご発表を心よりお待ちしております。

さて、特別報告につきましては、昨年の広島県北部の寺院調査報告に引き続き、山梨県早川町の寺院調査報告を当研究所囑託中條曉仁師より行って頂きました。この報告は宗門の大きな課題として取り組まれている過疎地域寺院の現状を調査したものです。中間報告として現状をお知らせするとともに、検討する関係委員会においても有効な資料となることを願うものです。

また、特別発表につきましては、輪廻観と信仰観をどの様に捉えるべきかをテーマとした「輪廻転生はどのように説かれるべきか」身延山大学副学長望月海慧師の発表、死刑制度について宗教界におけるいのちの尊厳や人権的見地からはどの様に考えて行くべきかをテーマとした「死刑制度の存廃をめぐる議論と仏教の立場について」兵庫県立大学名誉教授岡田真水師の発表を収録しました。いのちに対する捉え方は日頃の布教活動を行う上でも有益なものです。是非ご一読下さい。

最後に、当大会は本宗教師は勿論のこと、寺族、檀信徒にも門戸を開いた研究研鑽の証を発表する場としています。その成果を多くの方々に見て頂き、宗門研究機関発展へのご協力を切にお願いいたします。